
平成ライダーズ超外伝!?

浅葱和沙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平成ライダーズ超外伝！？

【Nコード】

N5147BA

【作者名】

浅葱和沙

【あらすじ】

キャラ崩壊必至！な笑いあり涙あり（？）の超絶ギャグ小説！

さらに、オリジ組のドッペルたちも登場して、更にカオス間違いなし！

運動会？演劇？料理？そんなモン、俺のてにかかりやどつってことないぜ！

ツッコミがほばいないこのカオス空間の中、あんなキャラ、こんなキャラが次々とどんどん壊れていく！！

果たして、ツッコミ役乾巧と左翔太郎の胃の痛みの行方や如何に！？

巧、翔太郎「」「サラッと怖いこと言ってるんじゃないっ！」「」

ドッペルご対面！

士「さて始まりました”平成ライダーズ超外伝！？”」
巧「何故に疑問符？」

士「外伝どころか、本編にのめり込みそうな勢いで書くからだ。つまりメタもあり」

巧「やめれ！」

士「…で、記念すべき第1回。今回はそうだな…あらすじ通りオリジナル勢のドッペルに集合してもらおうか」

翔「要するにドッペルのキャラ紹介ですか？」

士「YES！」

士「じゃあまずは第一号、クウガからだ！」

五代「どんな人なんだろう、楽しみだなあ…」

五代似の青年「あ、ども。こんにちはー」

ユウスケ似の少年「こんにちはー」

ユウスケ「あれ！？」

士「そういや、オリジとリマジのクウガドッペルって、兄弟だったな…。ま、いいか。五代のドッペル・五島ユウジとユウスケのドッペルでユウジの弟・五島ユウタだ」

ユウジ「よろしくー」

ユウタ「よろしくお願いします」

士「因みに、この兄弟の親は（芦河）シヨウイチドッペルのシヨウダイと八代藍ドッペルのアイミ」

ユウ「シヨウイチさん親なの!？」

五「2人とも、年齢は？」

ユウジ「19だよ」

ユウタ「15です」

五「若いねえー。因みに特技は」

ユウジ「柔道やってたから、投げ技」

ユウタ「召喚です！」

全「「何を喚ぶんだ!？」」「」

士「続いてはアギト!後ついでにカブト!」巧「ちよつと待て!普通時系列順じゃないのか!？」

士「よく一緒にいる奴らを纏めて出す。時系列なんか関係ねえ」

翔太郎「おいつ!」

翔一似の少年「…うつせえなあ」

総司似の少年「そんなこと言っちゃダメだよ」

渡「…津上さんがやさくれた」

良太郎「…そして天道さんが電波です」

翔「やさぐれてないよ…?」

総司「電波とは何だ、電波とは」

士「津上ドツペルのアルフ・ローレント、天道ドツペルのソーマ・レムレス。幼馴染同士で、互いに16歳だ」

五「特技は…」

アルフ「オレは剣士だから剣術。ソーマは回復魔法が得意だが…まだもう1つ、特技…っつーか秘密がある」

ヒビキ「それは何なのさ？」

アルフ「…オレの口からはこれ以上言えません…orz」
士「大体分かった、アルフはヘタレだな」
翔「……」

響「続いては、電王とゼロノス」

士「」 翔「にボコボコにされた

侑斗「…余計なこと言わなきゃいいのにな」

良「それが土くんだよ、仕方ない」

ドンガラガツシャーン！！

良太郎似の少年「ミヤコオオオツ！？」

侑斗似の少年「…痛た…」

全「」「真逆」「」

良「えっ」

侑「」 コケた方が自分のドツペルと知って放心状態

響「良ちゃんのドツペルのライ・ストラゲルくん、侑ちゃんのドツペルの桐谷ミヤコくんだよ！」

翔「因みに両方共17歳です」

ライ「うっす、よろしくな。ミヤコは人見知りか激しい奴でドジだけど、慣れれば大丈夫だから」

ミヤコ「よ、よろしくお願いします…」

弦太郎「へー、面白い奴だなー。ダチになろうぜ！」

巧「真っ先にそれかい」

ミヤコ「！！」 怯えてライの後ろに隠れる

フィリップ「しかも怯えられているね」

弦「orz」

五「特技はっ？（わくわく）」

翔太（五代さんもノリノリだな…）

ライ「俺はシーフだから…これか？」 海東のディエンドライバー
手に持ち

全「…ディエンドライバーっ！?!？」

ミヤコ「…ライ…？」 非難の目

ライ「はは、悪い悪い」 ディエンドライバー良太郎に手渡す

良「後で返しておくよ…」

五「そういうミヤコくんは？特技、何なんだい？」

ミヤコ「…僕は、…弓です」

ライ「そう、弓！ドジの癖して、狙った獲物は百発百中なんだよ」

フィリ「ほう、興味深いね。是非とも見てみたいものだ」

ミヤコ「やってみます…」 未だに気絶中の士の頭の上にリンゴ置く

巧「って、そこかよ!？」

ミヤコ「…はあ!」

スコオン！ リンゴのド真ん中に命中

全「…おおー!」「」

フィリ「成程、弓に関してはドジは適応されない、と」

ミヤコ「一応、訓練してますから…」

士（復活、顔にリンゴの汁ついている） 「 続いては、まとめて

紹介するぞ。響鬼、New電王、キバ、そしてダブルだ」

翔太「汁拭けよ!」

ヒビキ似の男性「おおー」

幸太郎似の青年「…」

渡似の青年「うわー…」

翔太郎似の青年「ふー…」
フィリップ似の青年「(わくわく)」

士「ヒビキドツペルの小崎ヒロム、幸太郎ドツペルのサグ、渡ドツペルの暁ヒイロ、翔太郎ドツペルの黒野カケル、フィリップドツペルのウイン・ライトエツジだ！」

ヒロム「よろしく！」 サムズアップ
ウイン「よろしゅうな！」
カケル「フツ…」

フィリ「翔太郎、黒野カケルの方がハードボイルドなんだが」

翔太「言うな！orz」

良「ウインくんは関西人？」

一真「なんか、五代さんとヒビキさんを足して2で割ったような感じだな、性格」

ヒロム「そうかあ？」

渡「眼帯…」

ヒイロ「…何だよ(ギロリ)」

渡「いや何でもないです」

サグ「オカルトマニアの血が騒ぐ…！」

幸太郎「(00)」 ショック

五「特技は？」

ヒロム「魔法鍛冶なら任せてくれ！」

ヒイロ「銃の扱いと水泳」

カケル「銃だな」

ウィン「格闘技やな」

サグ「…黒魔法…！」

幸「もう嫌あんなのが俺のドッペルだなんて！」

侑（…俺、まだマシだったな）

士「さてここで、ディケイド、ディエンドとオーズ…俺と海東、映司のドッペル登場だ！」

巧（せめてあの破壊者のドッペルまで破壊者じゃ無いことを祈りたい…）

士似の青年「はじめまして、こんにちは（ニコ）」

海東似の青年「……」

映司似の青年「ふーん…」

巧「よっしゃああああ…！士のドッペルはまともだったー！！」

士「おいつ…！俺のドッペルのニコラス・ビビット 通称ニコ、

海東ドッペルのヤミネ、そして映司ドッペルのヴィント・リングフ
イールドだ！」

ニコ「ふふ、皆さんよろしくお願ひしますね」

ヤミネ「…よろしく」

ヴィント「ま、仲良くしよう」

五「ところで…ニコさんとヴィントさん…今日は大丈夫なんですか？」

ニコ「大丈夫ですよ、一応護衛はつけていますし、ヤミネもいますから」

ヴィント「そうだな。お前が気にする必要はない」

翔太「大丈夫って…何がだよ」

士「あー、そういや2人共貴族のご子息様だったな。で、ヤミネはニコ直属の暗殺者」

…

…

…

全「「えええええつ!!?」「」

翔太「おい待て、それ本当か!？」

ヴィント「ああ、事実だ」

ニコ「私は王国の公爵家の跡取りで、ヴィントは大商人一家の跡取りなんですよ」

映司「海東さんの顔で暗殺者って…」

海東「そつち!？僕泣くよ!？」

士「海東の涙は置いて」

巧「置いてくのか!？」

士「ニコ、ヴィント、ヤミネ。お前らの特技を教える」

ニコ「趣味でやっている、乗馬と剣術ですね」

ヴィント「重火器の扱いなら任せろ」

翔太「銃じゃないのか!？」

ヴィント「まあな」ニコ「ヤミネはそうですねえ…料理です」

ヤミネ「(こくり)」

巧「料理!？」

真司「意外すぎる…」

士「さて、と。さあ最後に龍騎、ファイズ、ブレイド、そしてフォ

「ゼー！」

真「おー！」

巧「やつとか…」

「うえい」

弦「俺ドツペル、ギター！」

「真似の青年」「むふふー」

真司似の青年「ちょ、おい」

巧似の青年「ははは…」

弦太郎似の青年「…はあ」

「（OWO）！！？」

巧「おーい、剣崎が顔文字出すほどにショック受けてるぞ」

侑、幸（「あー、俺より凄いキャラ持つてそうだなんな…」）

士「真司ドツペルのレッカ」ファイアーズ、巧ドツペルのガウル・ステビア、弦太郎ドツペルの十六夜セント、そして剣崎ドツペルの斬裂ジンだ！」

ジン「おーこいつらが噂に聞いてた仮面ライダーか…解剖OK？」

レッカ「ダメ！」

全（「（解剖！！？）（）」）

五「特技は？」

翔太「聞かんでいい！」

ガウル「僕はメカニックなので…機械いじりが得意です。あのロボット、興味あるなあ…」

オートバジン『P i P i』

巧「やめろ、それ俺の移動手段！」

映「セントは？」

セント「俺はサイキツカーすから…、はっ！！」

スコーンツ！！

海「……」 真横を何かがかすった

良「」 脳天に石ころがめり込んだ

侑「野上ーッ！？」

幸太郎「じいちゃああああん！！？」 セント「こんな感じっす。俺、サイコキネシスが使えるんすよ」

映「だからって、石ころで人を殺せるのは反則だよ…」

弦「レッカさんは！？」

レッカ「俺は…まあこれと言ったものは…あ、あつたな」

渡「何ですか？」

レッカ「いや、ジンが開発したんだけどさ。俺専用のライダー

システム」 ベルト見せながら

全「…何ですと！？」

レッカ「まあ見てなって」 ベルト巻きつけて

レッカ「変身！」

『ファイエル！』

ファイエル「仮面ライダーファイエル…この刃に灼かれる、ってな」

弦「 すごい！！ダチになって下さい！！」

翔太「真っ先にそれかい」

—「……」

ジン「むふふー」

渡「何、あの2人」

巧「もう関わりたくねえ…」

「…俺の顔でそんな気味の悪い笑い声すんな」

ジン「むふー」

「…聞いてんのかゴルア!!」

『Turn up』

真「一真あああ!!待って、こんな所で変身しないでええーッ!」

「この後、2人を止めるのに2時間を要しました」

士「ゼエゼエ…。とにかく、以上が俺たちのドツペルだ。覚えておけ」

巧「覚えておけ、じゃねえ!!」

翔太「初っ端から面倒くせえことすんなよ!!」

ジョーカー（一真）「ぐるるる…!!」

響「どうどう!!」

総「とりあえず落ち着け!!」

巧「二度とあんなことをすんな!!下手したらバトルファイト再開だぞ!」士「そんなもん俺が破壊するだけだ!」

巧「なんもかんも破壊していいってわけじゃねえんだぞ!」

真「たつくん落ち着いて、血圧上がる」

翔太「いやそもそもオルフェノクに血圧云々ないだろ…」

ドッペルご対面！（後書き）

初小説です！

因みにオリジドッペルの年齢設定としては

五島ユウジ	: 19
五島ユウヤ	: 15
アルフ・ローレント	: 16
ソーマ・レムレス	: 16
ライ・ストラグル	: 17
桐谷ミヤコ	: 17
小崎ヒロム	: 33
サグ	: 18
暁ヒイロ	: 21
黒野カケル	: 20
ウイン・ライトエツジ	: 19
ニコ（ニコラス・ビビッド）	: 20
ヤミネ	: 21
ヴィント・リングフィールド	: 21
レツカ ^{II} ファイアーズ	: 24
斬裂ジン	: 23
ガウル・ステビア	: 17
十六夜セント	: 18

です。彼らが別の小説で、どのように登場するかは次のお楽しみで
！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5147ba/>

平成ライダーズ超外伝!?

2012年1月14日23時53分発行